

リサーチを重ね、アイデアを出し合った結果、竹を紐で組んだフェンスを作る事に決まりました。必要な材料を集めていよいよこれから実際にフェンス作りのスタートです。危険な作業などどうしても子どもには出来ない事以外は、大人の手を借りながらではありますが、子ども達が少しずつ自分たちで作ります。いったいどんなフェンスが出来るのか楽しみです。

### ●あらゆるものを教材として

プロジェクトは子ども主導で進んでいき、一見子ども達が思うままにやりたいことをやっているようにも見えますが実はそうではありません。教師はまず新しいプロジェクトを始める前に綿密な計画を立てます。予め子どもの興味を引きそうな事を想定して始めるのですが、時にはクラスの中で、また進行中の他のプロジェクトから思いがけず新しいプロジェクトが生まれる事だってあります。その都度教師はプランを練り直します。

レッジ・エミリアの教育が評判になり、世界中から見学に訪れた保育関係者達がまず突き当たった壁はこの点でした。この素晴らしい保育法を自分たちの園でどの様に実践するべきか、どんな教材を用いるべきか・・・しかしこれには明確な答えはありません。レッジ・エミリアには決められたカリキュラムや教材はないのです。あくまでも子どもを中心に、教師、親、コミュニティから新しいプロジェクトが生まれ、発展します。親も、保護者としてだけではなく、コミュニティの構成員として積極的に参加します。環境、自然現象、家族や友達との人間関係、とにかく子どもをとりまくあらゆるものを“教材”として、それらとの関わりの中で新しい発見をし、成長していくのです。そのコミュニティの文化や関心、環境、背景、子ども達の興味によってプロジェクトがどんな方向に進むのか、実際に始めてみないと分かりません。当然、教師の予測とは違う方向にプロジェクトが進む事も多々あります。教師の役割は、子ども達をしっかり見つけ、耳を傾け、子どもが持っている100の言葉を自由に表現出来る環境を整え、見守り、時には助け、そしてその経過を記録することです。

### ●子どもには出来る力がある

レッジ・エミリアでは、子どもを無知で弱いもの、守り、大人が導いていくべきものというよりもむしろ、好奇心と可能性に満ち、常に成長したいとの欲求にあふれた立派な1人の人間であると捉えています。子どもから発せられる疑問にすぐに答えを与えるのではなく、子ども自身が考え、話し合い、協力し合い、試行錯誤を重ねながら自分で答えを見つけるための十分な時間と環境を与え、子どもが自分で問題を解決するまで待ちます。なぜならば子どもにはその能力があるからです。

## 名古屋国際学園 学校概要

名古屋国際学園（名古屋インターナショナルスクール）は、中部地方で唯一、全課程で米国西部地域学校大学協会（WASC）及び、国際バカロレア機構（IBO）の正式認可を受けたインターナショナルスクールです。

愛知県だけでなく近隣の岐阜県、三重県からも、25カ国以上、約330名の生徒が通学しています。授業は全て英語で行われます。



### Data

創立 / 1964年、生徒数 / 約330名

設置学部 / 幼児教育部（3～4歳児）、小学部（キンダーガーテン～5年生）、中等部（6～8年生）、高等部（9～12年生）

認可 / 米国西部地域学校大学協会（WASC）

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（IBDP）

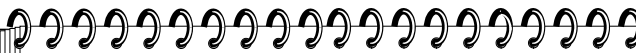
※ 2010年 国際バカロレア・初等教育プログラム（IBPYP）認定予定

### スケジュール

米国の標準的なカレンダーに準じ、始業は8月下旬、終業は6月中旬となっていますが、入学選考基準を満たしていれば、編入は随時可能です。

### 卒業後の進路

卒業時には、アメリカのハイスクール卒業と同等の資格が得られるとともに、国際バカロレアのディプロマ資格を取得するチャンスもあります。卒業生の多くは、アメリカ、カナダなど英語圏の大学に進学します。近年では、早稲田大学、上智大学など、英語のプログラムがある日本の大学に進学した生徒もいます。



学校法人 名古屋国際学園

名古屋インターナショナルスクール

〒463-0002 名古屋市守山区中志段味南原 2686

TEL : 052-736-20253

HP : [www.nagoyais.jp/nis/](http://www.nagoyais.jp/nis/) E-mail : [info@nagoyais.jp](mailto:info@nagoyais.jp)



名古屋インターナショナルスクールで実践している、イタリア生まれの幼児教育法の紹介です。

子どもは「立派な1人の人間である」を教育法の基本とし、「あらゆるものを教材」として、子どもを中心に保護者・教師・コミュニティで保育してゆきます。その教育環境の中で、子ども達が生来持っている力を伸ばしていきます。まさに、人間としての「生きる力」の育成を最優先し、インターナショナルな世代を生きる子どもを育てる教育法の実践です。